



第43回

全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～

大会計画骨子



令和5年6月29日

第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会

大会計画骨子の概要

1-1.基本理念

大分県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く訴えかける。また、四季折々の味力(みりょく)あふれる多様な水産物に加え、「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国へ広く発信する。

1-2.基本方針

- ①水産資源の保護と管理の一層の推進
- ②森から川、海へつながる豊かな自然環境の保全
- ③四季折々の多様な水産物の消費拡大
- ④おんせん県の新たな魅力を全国に発信

2.大会計画

- ・既存の施設の特徴を活かし、大会の基本方針に沿ったメッセージを効果的に発信できるよう内容を工夫する。
- ・式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場及び関連行事会場において、一体感のある演出を行うため、大型映像装置を活用し、映像中継を行う。
- ・各主要行事会場において、本県の特徴を活かした招待者への心のこもった“おもてなし”を行う。

(1) 式典行事計画

- ・厳粛で品位のある進行を基本として、豊かな海の重要性や本県での取組を全国に発信できる内容とする。



(会場：iichikoグランシアタ)

(3) 関連行事計画（県下複数箇所）

- ・大会を県全体で盛り上げるため、大会当日に市町村等と連携して県内複数個所での水産関連イベントを実施する。イベントでは、大型モニターを活用した式典行事等の映像配信を実施する。また、一部の会場では、海上歓迎・放流行事会場との同時放流を実施する。

(2) 海上歓迎・放流行事計画

- ・別府湾の雄大な景色や豊かな漁場をご覧いただき海上での漁船パレードや稚魚等の放流を通じてつくり育てる漁業の理解を深める場とともに、大分の海や水産物の魅力を全国に発信する。



(会場：別府港第4埠頭)

(4) その他

- ・「絵画や習字の優秀作品御覧」や「歓迎レセプション」を実施する。

3.機運醸成計画 基本方針（4つの柱）を具現化する以下の取組を展開

①水産資源の保護と管理の一層の推進

- ▶小学生等に対する水産教室やリレー放流の実施
※県内各地でのリレー放流にあわせて、子どもたちが楽しく学べる水産教室などを実施することで地域の水産業への関心を深めてもらう。（大会後も継続的に啓発を進める）



②森から川、海へつながる豊かな自然環境の保全

- ▶森・川・海のつながりと自然環境の保全について、県民への理解を促し、環境保全への関心を高めることを目的として、県内小学生を対象にした体験学習プログラムなどの開催

③四季折々の多様な水産物の消費拡大

- ▶新たに制作した「大会ロゴマーク」を活用した県産魚の消費拡大PR
- ▶既存の水産物消費拡大イベントと連携した更なる県産水産物消費拡大の取組

④おんせん県の新たな魅力を全国に発信

- ▶ホーバークラフトなどの本県の新たな魅力に関するPR
※①～③に合わせて、各種イベントなどでPRする。

⑤上記①～④を包括的に啓発

- ▶1年前プレイベント
開催日：R5.11.4(土)
場 所：別府港第4埠頭
内 容：海上歓迎・放流行事
企画展示、ステージ
イベントなど



- ▶大会PR隊による各種イベントでのPR

⑥協賛募集、広報、その他

- ▶「協賛行事」の募集
県内の企業や団体からの協賛行事を募集する。
- ▶大会専用HPやSNSなどを活用した効果的な広報の展開
- ▶作文、絵画、習字コンクールの実施（作文は、豊かな海づくり大会推進委員会と共催）



目次

1. 大会概要

1-1	全体概要	1
1-2	大会の基本構想	2

2. 大会計画

2-1	基本的考え方	5
2-2	全体計画	5
2-3	式典行事計画	7
2-4	海上歓迎・放流行事計画	10
2-5	御放流魚・お手渡し魚	13
2-6	関連行事計画	15
2-7	その他の行事	16
2-8	大会運営計画	17
2-9	荒天時計画	17

3. 機運醸成計画

3-1	基本的考え方	18
3-2	具体的な取組方針	18
	(1) 水産資源の保護と管理の一層の推進に資する取組	
	(2) 森から川、海へとつながる豊かな自然環境の保全に資する取組	
	(3) 四季折々の多様な水産物の消費拡大に資する取組	
	(4) おんせん県の新たな魅力を全国に発信する取組	
	(5) 上記(1)～(4)を包括的に啓発していく取組	
	(6) 協賛募集	
	(7) 各種広報	
	(8) その他	

4. 実施スケジュール

4-1	大会開催に関する全体スケジュール	21
-----	------------------	----

※全国豊かな海づくり大会は、これまで、天皇皇后両陛下の御臨席のもとに開催されていることから、本大会においても、天皇皇后両陛下の御臨席を想定し、計画を作成します。

1.大会概要

1-1 全体概要

- ◎ **大会名称** 第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～
- ◎ **主 催** 豊かな海づくり大会推進委員会と大分県実行委員会の共催
- ◎ **開催時期** 令和6年秋季
- ◎ **開催場所** 「式典行事」 iichikoグランシアタ（大分市）
「海上歓迎・放流行事」 別府港第4埠頭（別府市）
「関連行事」 県内複数箇所（大分市や佐伯市等検討中）
- ◎ **行事内容（予定）**
 - (1) 式典行事
資源管理や漁場保全等に功績のあった団体の表彰、稚魚等のお手渡し、最優秀作文の発表、漁業者メッセージ、大会決議、大会旗引継など
 - (2) 海上歓迎・放流行事
漁船等による海上歓迎パレード、稚魚等の放流など
 - (3) 歓迎レセプション
本県の農林水産物等を豊富に使用した“おもてなし”など
 - (4) その他
大会を記念した絵画・習字等のコンクールの入賞作品の展示、企画展示や物産品販売など
- ◎ **大会テーマ**
「つなぐバトン 豊かな海を 次世代へ」
- ◎ **大会ロゴマーク、めじろんコスチュームデザイン**



[大会ロゴマーク]



[めじろんコスチューム]

※大会ロゴマークは、大会後の継続的な活用を目指す。

1.大会概要

1-2 大会の基本構想

1 大分県の水産業

大分県は、九州の北東部に位置し、豊予海峡を境として北は瀬戸内海、南は豊後水道に面し、九州本土最高峰の中岳を含むくじゅう連山や、県内全域で温泉が満喫できる、源泉数・湧出量ともに日本一の「おんせん県」であるなど、豊かな自然環境に恵まれています。

瀬戸内海沿岸は、広大な干潟を有する豊前海や一級河川の大野川と大分川が流れ込む別府湾や豊後灘など多様な漁場で構成され、小型底びき網や刺し網、船びき網などを主体として、エビ類、マダイ、サワラ、シラスなどを水揚げしているほか、干潟域や内湾を利用したカキ養殖も盛んです。

一方、豊後水道は沿岸域がリアス海岸で形成される生産性の高い漁場となっており、まき網や定置網、一本釣りなどを主体として、アジやサバ、イワシをはじめとした多種多様な魚介類を水揚げしています。また、静穏域が多い海岸地形を利用して、生産量全国1位のヒラメ、2位のブリをはじめとして、クロマグロ、シマアジなどの魚類養殖業や貝類養殖業が盛んに行われています。

内水面では、九州で漁獲量1位のアユをはじめとした河川漁業のほか、ドジョウやスッポンなどの養殖業も営まれています。

全国の高級ブランド魚の先駆けである「関あじ関さば」をはじめ、「城下かれい」、「姫島車えび」、県の特産品であるカボスを餌に混ぜて育てた「かぼすブリ」、「かぼすヒラメ」などの魅力あるブランド水産物が多く存在し、複雑な海岸線により地域毎に多様な水産物が水揚げされています。

このような地域の特徴に根ざした多種多様な漁業は、四季折々の豊かな水産物を県内外に供給することはもちろん、水産加工品の原料や、観光資源としての利用など、本県の産業振興に重要な役割を果たしています。



(関あじ・関さば)



(かぼすブリ)

1.大会概要

1-2 大会の基本構想

2 開催意義

(1) つくり育てる漁業をさらに推進していく絶好の機会

「全国豊かな海づくり大会」の第1回大会は、昭和56年に皇太子同妃両殿下をお迎えし、全国に先駆けて、本県の鶴見町（現：佐伯市鶴見）松浦漁港で開催されました。

大会を契機として、漁業関係者が一丸となり栽培漁業の推進や小型魚の漁獲規制、県下一斉休漁日の設定、環境に配慮した養殖業の振興などの取組が積極的に行われてきました。また、これらは水産資源が生育する環境を保全するための藻場造成や海岸の清掃、森林から川や海へのつながりを意識した植樹活動などの取組とあわせ、40年以上が経過した現在も技術向上などにより発展的に継続され、水産資源の保護・管理と環境保全の大切さは多くの漁業者の意識に根付いてきています。

一方で、水産資源の減少は続いており、それに伴う担い手の減少や高齢化の進行、消費者の魚離れなど水産業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

本大会は、第1回目の開催県として、本県の漁業関係者のこれまでの努力とこれからの挑戦を県内外に広くアピールし、水産業についての理解と関心をさらに深めてもらうとともに、つくり育てる漁業の要である種苗生産施設（大分県漁業公社国東事業場）のリニューアルと相まって、さらなる取組を推進する絶好の機会となります。

(2) 環境保全の重要性を訴える貴重な機会

ふるさとの豊かな海を守っていくためには、栄養豊富な水を生み出す森林と、その水を海へ供給する河川の環境を保全していくことも重要です。

また、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックごみや地球温暖化による海洋環境の変化などの新たな課題に対しては、漁業者だけでなく消費者も含めた国民全体で取り組むことが不可欠です。本県で2回目の開催となる本大会は、環境保全の重要性を広く訴えかけていくことのできる貴重な機会となります。

(3) 水産物の消費拡大と「おんせん県」の新たな魅力を発信できる機会

国内の水産物消費の減少が続く中、本県では消費拡大に向けて、お魚料理教室の開催や学校給食への利用促進、家庭で手軽に食べることができるレシピの開発などの魚食普及に取り組んでいます。大会は、これら魚食普及に一層取り組んでいく契機になるとともに、本県の豊かな海や川で育まれた多様な水産物の味力(みりよく)を県内外に広く発信する機会となります。

また、日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活やアジア初の水平型宇宙港としても活用が期待される大分空港などについても「おんせん県おおい」の新たな魅力として、令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせ、全国に広く発信する機会となります。

1.大会概要

1-2 大会の基本構想

3 基本理念

大分県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く訴えかけます。

また、四季折々の味力(みりよく)あふれる多様な水産物に加え、「おんせん県おいた」の新たな魅力を全国へ広く発信していきます。

4 基本方針

(1) 水産資源の保護と管理の一層の推進

水産資源の維持・増大を図り、「生産者の挑戦と努力が報われる漁業」の実現に向け、令和5年度にリニューアルする大分県漁業公社を核に、つくり育てる漁業をさらに推進するための大会とします。

(2) 森から川、海へとつながる豊かな自然環境の保全

森から川へ、川から海へとつながる自然環境や藻場造成などによる良好な沿岸環境の保全とともに、近年、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックごみや地球温暖化などの環境問題に取り組むことの重要性について県内外へ広く訴えかけることで、本県の豊かな海や川を次代に引き継いでいく大会とします。

(3) 四季折々の多様な水産物の消費拡大

「関あじ関さば」、「城下かれい」、「かぼすぶり」、「姫島車えび」などのブランド水産物をはじめ、本県の海や川で育まれた四季折々の多様な水産物の味力(みりよく)を県内外へ発信し、消費拡大を図る大会とします。

(4) おんせん県の新たな魅力を全国に発信

日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活や「宇宙港」としての発展が期待される大分空港など本県では地域の活性化に向けた新たな取組を次々と展開しています。令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせて、新たな魅力を全国に発信する大会とします。

2.大会計画

2-1 基本的考え方

大会の基本方針（4つの柱）に基づき、大会当日はもちろん、大会前の期間を含め、水産業関係者のみならず県民等の意識向上に資する取組を展開することで、大分県全体の水産業振興を図る。

第43回全国豊かな海づくり大会「基本構想」

3. 基本理念

大分県の豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていくことの重要性を県内外へ広く訴えかけます。
また、四季折々の味力あふれる多様な水産物に加え、「おんせん県おおいた」の新たな魅力を全国へ広く発信していきます。

4. 基本方針 (基本理念を支える4つの柱)

①水産資源の保護と 管理の一層の推進

水産資源の維持・増大を図り、「生産者の挑戦と努力が報われる漁業」の実現に向け、令和5年度にリニューアルする大分県漁業公社を核に、つくり育てる漁業をさらに推進するための大会とします。

②森から川、海へとつながる 豊かな自然環境の保全

森から川へ、川から海へとつながる自然環境や藻場造成などによる良好な沿岸環境の保全とともに、近年、国際的に大きな問題となっている海洋プラスチックゴミや地球温暖化などの環境問題に取り組むことの重要性について県内外へ広く訴えかけることで、本県の豊かな海や川を次代に引き継いでいく大会とします。

③四季折々の多様な 水産物の消費拡大

「関あじ関さば」、「城下かれい」、「かほすぶり」、「姫島車えび」などのブランド水産物をはじめ、本県の海や川で育まれた四季折々の多様な水産物の味力を県内外へ発信し、消費拡大を図る大会とします。

④おんせん県の新たな 魅力を全国に発信

日本唯一の海上交通であるホーバークラフトの復活や「宇宙港」としての発展が期待される大分空港など、本県の新たな魅力を令和6年春のデスティネーションキャンペーンとあわせて、全国に発信する大会とします。

2-2 全体計画

- ・ 既存の施設の特徴を活かし、大会の基本方針に沿ったメッセージを効果的に発信できるよう内容を工夫する。
- ・ 式典行事会場、海上歓迎・放流行事会場及び関連行事会場において、一体感のある演出を行うため、大型映像装置を活用し、映像中継を行う。
- ・ 各主要行事会場において、本県の特徴を活かした招待者への心のこもった“おもてなし”を行うことで、参加者が、再び来県したいと思っただけけるよう工夫を凝らす。

2.大会計画

2-2 全体計画

会場配置

別府湾岸のコンパクトなエリア内に「式典行事会場」と「海上歓迎・放流行事会場」の両会場を配置する。



タイムスケジュール

会場	式典行事	海上歓迎・放流行事	関連行事	作品御覧・ 歓迎レセプション
第一日目	9:00 総合リハーサル	総合リハーサル	水産関連の集客 イベント	
	17:00			絵画等優秀作品御覧 歓迎レセプション
第二日目	9:00 式典行事		水産関連の集客 イベント（式典 行事等の映像中 継他）	
	12:00	海上歓迎・ 放流行事		
	17:00			

2.大会計画

2-3 式典行事計画

厳粛で品位のある進行を基本として、豊かな海の重要性や本県での取組を全国に発信できる内容とする。

※下の表は、先催県の例を参考に記載したものであり出演者等は確定ではない。

進行	内容・出演者等
プロローグ	大分県PR映像、伝統芸能 等
御臨席	御先導：大分県知事
大会旗入場	旗手：県内高等学校生徒 先導：鼓笛隊 等
開会のことば	大分県漁業協同組合 代表理事組合長
国歌斉唱	吹奏楽 等
主催者あいさつ	全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長） 大分県実行委員会会長（大分県知事）
歓迎のことば	開催地代表市長
おことば	
表彰（功績団体等）	全国豊かな海づくり大会会長賞、農林水産大臣賞、 環境大臣賞、水産庁長官賞、大分県知事賞
最優秀作文の発表	全国豊かな海づくり大会会長賞の受賞者代表
稚魚等のお手渡し	お受取：水産関係者 介添え：県内高等学校生徒 等
海づくりメッセージ	漁業後継者等によるメッセージ
大会決議	豊かな海づくり大会推進委員会会長 （全国漁業協同組合連合会代表理事会長）
大会旗引継	大分県知事から次期開催県知事へ引継
次期開催県あいさつ	次期開催県知事
閉会のことば	大分県議会議長
御退席	御先導：大分県知事
表彰式	作品コンクール受賞者等
エピローグ	豊かな海への想いを音楽やパフォーマンスで表現



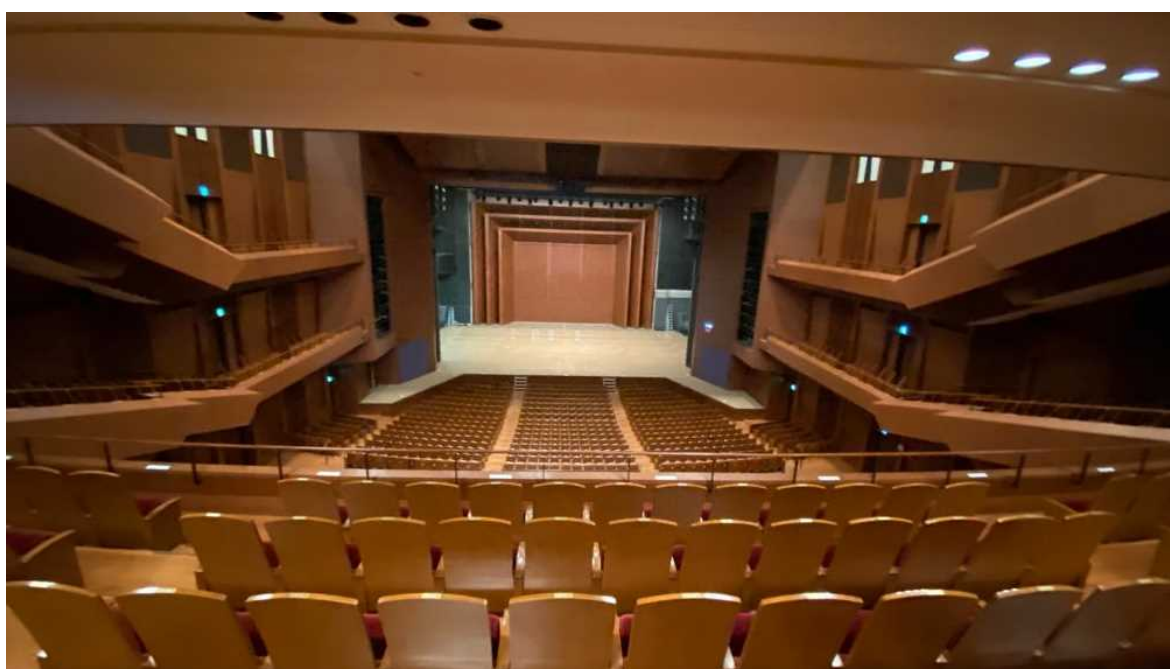
第41回兵庫県（R4.11.13）の様子

2.大会計画

2-3 式典行事計画

会場の特徴

平成30年10月6日の第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会の式典会場として活用されたiichikoグランシアタは、最大1,966人の観客を収容できる規模と十分な広さの舞台ステージや複数の控室などを兼ね備えています。

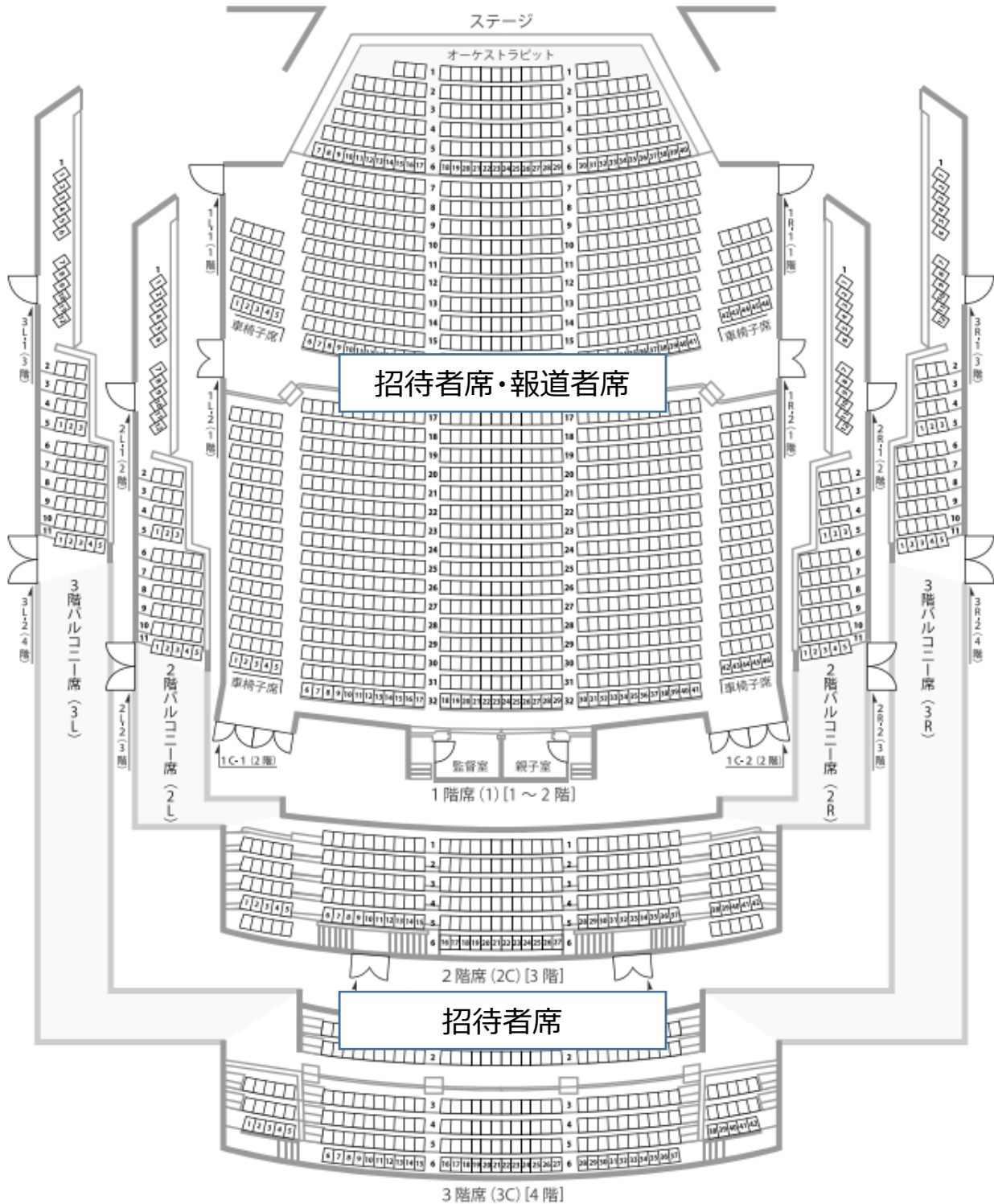


2.大会計画

2-3 式典行事計画

会場配置イメージ (iichikoグランシアタ内)

※式典への参加者（招待者等）は、1000人程度を想定。



2.大会計画

2-4 海上歓迎・放流行事計画

別府湾の雄大な景色や豊かな漁場をご覧いただき、海上での漁船パレードや稚魚等の放流を通じてつくり育てる漁業の理解を深める場とするとともに、大分の海や水産業の魅力を全国に発信する。

※下の表は、先催県の例を参考に記載したものであり出演者等は確定ではない

進行	内容・出演者等
歓迎演奏	吹奏楽 等
進行概要説明	司会者
会場御着～御放流所へ御移動	御先導：大分県知事
海上歓迎	漁船団パレード、漁法紹介パレード
第1回放流	介添え者：県内高等学校生徒 等
第2回放流	介添え者：県内高等学校生徒 等
御放流所から御移動～会場御発	御先導：大分県知事



第41回兵庫大会（R4.11.13）の様子（写真左：両陛下による御放流 右：漁法紹介パレード）

2.大会計画

2-4 海上歓迎・放流行事計画

会場のあるエリア（別府湾）の特徴

別府湾は、多様な漁船漁業（底びき網、船びき網、刺し網など）が営まれている豊かな漁場です。湾岸（大分、別府、杵築、日出）の漁業者による種苗放流も盛んに行われるなど、つくり育てる漁業に力を入れている海域でもあります。



会場（別府港第4埠頭）の特徴

耐震強化岸壁や船舶が安全に航行できる水深と泊地の広さを兼ね備えているという点に加え、背後の広大な多目的広場を活用したおもてなし会場の設置が可能な点など、大会参加者を安心してお迎えすることのできる場所です。

さらに、別府湾の豊かな漁場と美しい自然の景色を一望することができ、背後には「日本一のおんせん県おおいた」を代表する観光地である別府市街地が広がっており、本県の魅力をアピールできる絶好の場所です。



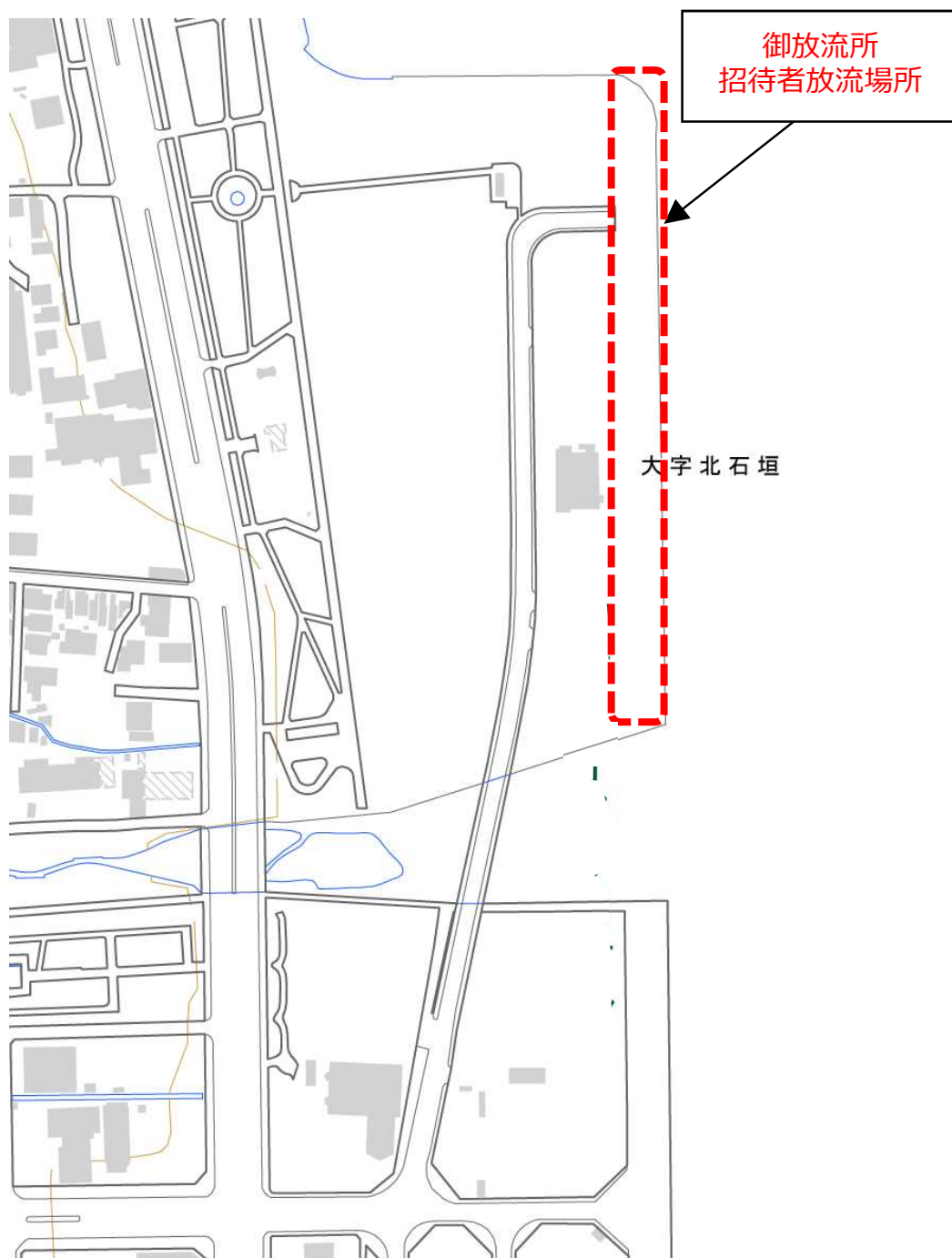
2.大会計画

2-4 海上歓迎・放流行事計画

会場配置

※過去の大会を参考に、現地の状況等に応じて配置を決定

※海上歓迎・放流行事の参加者（招待者等）は、500人程度を想定



国土地理院地図

(<https://maps.gsi.go.jp/#18/33.307440/131.503306/&base=pale&ls=pale&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

を基に大分県作成

2.大会計画

2-5 御放流魚・お手渡し魚

御放流魚

※海上歓迎・放流行事で放流

マコガレイ

- ・本県では瀬戸内海を主体に、底びき網漁業や刺し網漁業などで漁獲される。
- ・放流種苗の生残率を高めるため、別府湾海域では中間育成により、稚魚を捕食されにくいサイズまで育て放流している。
- ・伊予灘及び豊後水道北部海域では、全長制限による資源管理に取り組んでいる。
- ・日出町の「城下かれい」は本種のことであり、全国的に知られるブランド魚である。



マダイ

- ・釣り漁業や底びき網漁業、刺し網漁業、ごち網漁業など様々な漁業種類で漁獲される。
- ・本県における栽培漁業の歴史は古く、昭和56年の第1回大会でも放流している。
- ・これまでに積極的な放流や資源管理が行われており、資源水準は回復基調にある。
- ・遊漁の対象としても人気があり、漁業のみならず、レジャーでも重要な魚種である。



第41回兵庫大会（R4.11.13）の様子（写真左：両陛下によるお手渡し 右：招待者の放流）

2.大会計画

2-5 御放流魚・お手渡し魚

お手渡し魚

※式典行事会場で手渡され後日放流

イサキ

- ・主に豊後水道域で漁獲され、刺し網漁業や一本釣り漁業などで漁獲される。
- ・県内で年間およそ50万尾が放流されており、全長制限による資源管理の取組が行われている。



カジメ

- ・県内では「くろめ」と呼ばれ、食用として豊後水道北部域で漁獲される。
- ・食害生物の除去や母藻設置などにより、県内各地でカジメをはじめとした海藻や海草の保全活動が行われている。
- ・近年、温室効果ガスの吸収源としてブルーカーボン生態系への注目が高まっている。



キジハタ

- ・地方名では「アコウ」と呼ばれ、高級魚として扱われる。
- ・令和5年度にリニューアルする大分県漁業公社で生産が開始される予定であり、放流場所付近での定着性が強く、放流対象種として有望とされる。



アサリ

- ・潮干狩りの対象種として古くから親しまれ、1980年代には本県のアサリ漁獲量は日本一を誇った。
- ・1986年以降、本県のアサリ資源は大きく減少しており、資源回復に向けて各地で増殖活動が行われている。



2.大会計画

2-6 関連行事計画

会場配置

大会を県全体で盛り上げるため、大会当日に県内市町村等と連携して複数箇所での水産関連イベントを実施する。イベントでは、大型モニターを活用した式典行事等の映像配信を実施する。また、一部の会場では、海上歓迎・放流行事会場との同時放流を実施する。

別府港会場とのタイミングを合わせた別会場での同時放流のイメージ



式典等のライブ映像配信イメージ



2.大会計画

2-7 その他の行事

(1) 絵画・習字優秀作品御覧

全国豊かな海づくり大会を記念して、県内の児童・生徒を対象に絵画や習字のコンクールを実施し、優秀作品をご覧いただく。

※下の表は、先催県の例を参考に記載したものであり出演者等は確定ではない

進行	内容・出演者等
御着	御先導：大分県知事
絵画・習字優秀作品御覧	御説明：大分県教育委員会教育長 受賞者：大分県知事賞（絵画部門・習字部門）
御発	御先導：大分県知事



第41回兵庫県（R4.11.13）の様子

(2) 歓迎レセプション

第1日目に、本県自慢の農林水産物を豊富に使用した歓迎レセプションを開催し、心のこもった“おもてなし”でお迎えます。

※下の表は、先催県の例を参考に記載したものであり出演者等は確定ではない

進行	内容・出演者等
御着	御先導：大分県知事
開宴のことば	大分県副知事
主催者挨拶	大分県知事
歓迎のことば	開催地代表市長
乾杯	全国豊かな海づくり大会会長（衆議院議長）
御懇談	
御退席	御先導：大分県知事
歓談	
終宴のことば	大分県議会議長



第39回秋田県（R元.9.8）の様子

2.大会計画

2-8 大会運営計画

基本的考え方

- (1) イベントの企画・運営や参加者の輸送等について、専門の事業者を積極的に活用する。
- (2) 実行委員会に所属する組織だけでなく、様々な主体と連携して大会運営を行う。
- (3) 障がい者、高齢者等へ配慮した運営を行う。
- (4) イベント等の開催にあたっては、環境への負荷を可能な限り低減できる手法を検討する。

緊急時対応

- (1) 医療機関や警備等の関係機関との連携を密にし、事故防止や非常時の迅速な対応に努める。
- (2) 悪天候や地震などの災害への対応として、情報収集と避難誘導や大会行事の実施等の判断を迅速かつ的確に行える体制を整える。

2-9 荒天時計画

荒天時等の対応

- (1) 台風による荒天時や地震、津波等の災害、火災、その他の突発的事案が発生した場合には、大会行事の開催可否を決定するため、判定会議を開催する。
- (2) 判定会議は、気象状況や災害、突発的事案の情報収集、整理を行い、専門家の意見を踏まえた上で、実施の可否を判断することとする。
なお、大会行事の実施、変更、中止の判断基準は、大会計画で詳細を定める。
- (3) 判定会議において、荒天や災害、その他の突発的事案により海上歓迎行事の実施が困難であると判断した場合には、荒天時計画（A）に変更し、行事を実施する。さらに、放流行事の実施も困難であると判断した場合には、荒天時計画（B）に変更し、式典行事を実施する。
なお、台風や地震、津波等により、招待者や来場者の会場への移動に危険が伴うと判断した場合には、全ての行事を中止する。

行事名	荒天時計画（A）	荒天時計画（B）
式典行事	計画どおり実施	計画どおり実施
海上歓迎行事	中止	中止
放流行事	計画どおり実施	中止

3.機運醸成計画

3-1 基本的考え方

単なる「大会の周知」ではなく、大会の基本方針（4つの柱）をそれぞれ具現化した取組となるようにする。

3-2 具体的な取組方針

以下の取組に漁業者が積極的に参画することで、漁業者自身のやる気も喚起し、今後の水産振興につなげる

(1) 水産資源の保護と管理の一層の推進に資する取組

- ▶ 小学生等に対する「水産教室」や「リレー放流」の実施
 - ・ 県内各地で児童などと一緒に稚魚の放流等を実施する。あわせて、子どもたちが楽しく学べる水産教室などを実施することで大会の機運醸成と同時に地域の水産業についての理解を深めてもらう。（大会後も継続的に啓発を進める。）

(2) 森から川、海へとつながる豊かな自然環境の保全に資する取組

- ▶ 森・川・海つながり実感！プロジェクト
 - ・ 森・川・海のとつながりと自然環境の保全について、県民への理解を促し、環境保全への関心を高めることを目的として、県内小学生を対象にした体験学習プログラムを開催し、大会基本方針の浸透を図る。
- ▶ 県内で活動する環境保全団体等と連携した取組
 - ・ 水産関係団体だけでなく、県内の様々な環境保全団体等と連携した取り組みを実施する。（協賛行事など）

(3) 四季折々の多様な水産物の消費拡大に資する取組

- ▶ 新たに制作した「大会ロゴマーク」を活用した県産魚の消費拡大PR
 - ・ 全国から応募のあった作品の中から厳正な審査により決定した大会ロゴマークを活用して広く大会をPRすると同時に、多様な県産水産物の味力を併せて発信することで、消費拡大を図る。
- ▶ 既存の水産物消費拡大イベントと連携した更なる県産水産物消費拡大の取組など

(4) おんせん県の新たな魅力を全国に発信する取組

- ▶ 日本唯一の海上交通であるホーバークラフトなどの本県の新たな動きについても、県下各地の様々なイベントで併せてPR

3.機運醸成計画

3-2 具体的な取組方針

(5) 上記(1)～(4)を包括的に啓発していく取組

▶1年前プレイベント 「(仮称)豊かな海づくりフェスタ」

令和6年に「海上歓迎・放流行事」の会場となる「別府港第4埠頭」において、大会本番に向けた課題と対策を検討し得られた内容を大会計画に反映させるため、漁船等のパレードや放流行事を実施する。併せて、多くの県民の来場を促すことで大会の機運醸成を図る。

開催日 令和5年11月4日(土)

場所 別府港第4埠頭及び隣接の多目的広場

内容(イメージ)

- 1) 漁船等による漁船団パレード、漁法紹介パレード
- 2) 稚魚等の放流
- 3) 大会テーマ、めじろんコスチューム、大会ロゴマークのお披露目
- 4) スペシャルゲストによるトークショー等のステージイベント
- 5) 豊かな海づくりに関連する各種体験等ブース等の設置
- 6) 水産加工品や各種飲食物販売ブース



▶大会PR隊

県内各地で行われる水産関連のイベントや水辺の生き物観察会などの教育イベントと連携し、ステージイベントや企画展示ブースの設置、大会PRグッズ配布等を行い県民に向けた機運醸成を図る。

日時 通年

場所 県内全域

3.機運醸成計画

3-2 具体的な取組方針

(6) 協賛募集

▶民間企業・団体からの協賛募集

大会の成功に向けて、基本理念に賛同する企業等から協賛金（物品含む）を募集するとともに、大会の周知や機運醸成を図ることを目的に、イベントや清掃活動、水産物消費などの活動を協賛行事として募集する。

(7) 各種広報

▶大会テーマ、キャラクター、大会ロゴマーク等を活用したPR

公募により決定した大会テーマの普及を図るとともに、大会PRキャラクター（めじろん）や大会ロゴマークを活用したPRグッズを製作する。併せて、様々な広告物への掲載や企業や団体へも利用を促すことでより多くの方へPRしていく。

▶大会専用ホームページの制作

大会に関する情報を県内外へ効果的に発信するためのプラットフォームとして大会専用ホームページを新たに制作する。

▶（ホームページコンテンツの一つとしての）特集記事の制作

大会の掲げる4つの基本方針に関する県内の取組を特集記事として書き起こし発信することで、県民への基本方針の浸透、行動変容を促す。

▶PR動画の制作・発信

大会情報（大会名称や開催場所・時期等）を広く県民へ周知するため、「海」をテーマとした迫力のある演出で構成するPR動画を制作し、大分駅構内のサイネージや市町村庁舎内のサイネージ等で発信する。

▶各種メディア・媒体を活用した情報発信

広報誌やラジオ、テレビ、SNS（大会公式Instagram）等の各種広報媒体を活用し、大会に関する情報を迅速かつ広域的に発信する。併せて、新たに制作するデジタルコンテンツ（PR動画やHP特集記事）について、より効果的に対象者へ届けていくため、デジタルマーケティングの手法を積極的に活用する。

(8) その他

▶第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会への参加

令和5年に開催される北海道大会へ参加し大会旗の引き継ぎを受けるとともに、次期開催県としておんせん県おおいたの魅力をPRする

▶作文・絵画・習字コンクールの開催

大会開催年度（令和6年度）に県内の児童・生徒を対象に作文・絵画・習字コンクールを実施する。

4.実施スケジュール

4-1 大会開催に関する全体スケジュール

年度	月	会議・実施本部設置等	機運醸成・広報
令和4年度	12		
	1		
	2		
	3	実行委員会総会（大会計画骨子【暫定版】等）	
5年度	4		
	5		
	6	実行委員会総会（大会計画骨子等）	大会テーマ、ロゴマーク等の決定
	7		
	8		
	9		北海道大会でPR
	10		
	11		1年前プレイベント
	12		
	1		
	2		大会公式ポスター作成
	3	実行委員会総会（大会計画等）	
6年度	4		大会記念作品募集（作文・絵画・習字）
	5	大会実施本部設置	
	6		
	7		
	8		
	9	1か月前総合リハーサル 前日総合リハーサル	
	10	第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～	
	11		
	12		
	1		
	2		
	3	実行委員会総会（解散総会）	大会実績報告書作成

[大会ロゴマーク]



おおいた

※大会を機に公募を行い、決定したロゴマークです。

※大分県の豊かな海や川で泳ぐ魚の群れをイメージしています。色は、大分県の多種多様な水産物を、模様の様につながるビジュアルは、豊かな自然環境を守り次代へつないでいく意味が込められています。